

脱サラ 農業一年生

鳥喰下 小林 義 茂さん (42才)



郡内初の水気耕栽培に挑戦
(ハイポニカ)

23年間のサラリーマン生活から一転。トマト栽培に夢を託すのは鳥喰下に住む小林義茂さん。

大きくかえる出会いがあったのです。政府館に展示されていたトマトの太木(?)。一本に一万五千個の実。大きなシヨックをうけました。すっかりトマトのトリコになった小林さん。早速、会場でもらったパンフレットを頼りに兵庫県に視察にでかけました。周囲の反対をよそに夢はますますふくらむばかり。

夢実現に向けてばく進

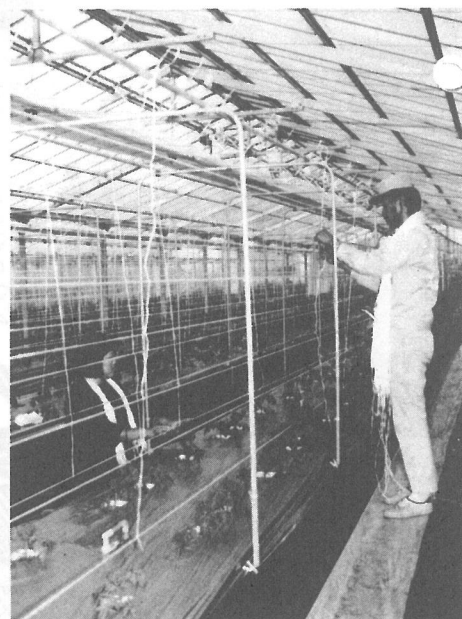
問題は資金と土地。たまたま有楽町にできた新規農業ガイドセンターに行き、土地探しのアドバイスを受けました。

山武郡をはじめ、長生・夷隅と足を運ぶこと十数回。退職金とマンションを売った金をもとに、新島に六百

坪近くの土地を手に入れました。不足資金を補うために、



機械の説明をする小林さん



奥さんのケイ子さんとの息もピッタリ

心をいめてLIVE

あちらこちらの金融機関に融資の申し入れをしましたが、あつさり門前払い。やつの

ことで四百坪のハウスを建てました。

郡内では初めてというミニトマトの水気耕栽培。前々から農業には深い関心があったという小林さんですが、「全くの素人ですから専門家の指導通りにやるだけです」ときっぱり。毎日のデータづくりは欠かせません。ほとんどが自動的にコントロールされた設備の中で、「トマトは生き物。語りかけるように接する心が大事だと思うんです。」とやさしく応えられました。

スタートが遅れた関係で、出荷は2月頃だそうです。今

小林さんにとって未知への挑戦で「私のようなドン・キホーテがいてもいいでしょう」と言いながらも、常に周囲が不安な面持ちで見ているのを十分承知して、「絶対成功してやる」という強い意志が伺えます。秘められた胸のうちを垣間見た思いがしました。

やさしく輝く瞳は、明るい明日を物語っているようです。